

NETIS対応機種一覧

2019/1/25更新

登録番号	技術名称	掲載終了日	対象	概要（NETISから抜粋）
KT-080028-VE	振動マカダムローラ	2019/3/31	MW700 MW700-1 MW703	本技術は振動可能な機構を装備した振動マカダムローラにより、舗装材料を効率的に締固める技術で、従来は無振のマカダムローラにより対応していた。本技術の活用により締固め作業の効率化と品質の向上ならびに均一化が期待できる。
KT-100107-VE	締固め管理システムCIS (コンパクトインフォメーションシステム)	2021/3/31	CIS CCV PTS-3000 (路面温度計)	本技術は、土工や舗装工での締固め作業において、施工情報をリアルタイムに自動取得し管理する技術で、従来はRI計測法を用いた人力計測で対応していた。本技術の活用により、リアルタイムに施工品質を判断し、転圧の過不足を防止でき、品質が向上する。
HK-110006-VE	超低騒音型締固め機械	2022/3/31	R2-2 TS160-2 TW200-1 TW230-1 TW250-1 TW352S-1 TW502S-1 SW200-1 SW250-1 SW352S-1 SW502S-1 R2-4 TW354 SW354 HV520 HV620 TW504 SW504	本技術は、超低騒音型締固め機械を用いた締固め技術で、機械運転手及び機械周辺作業者の聴覚確保と施工現場周辺の騒音公害の低減が図れる。
HK-110007-VE	樹脂製タンク採用ローラ	2022/3/31	TZ701-1 SW352-1 SW502-1 SW652-1 SW652B-1 SW652ND-1 TW352-1 TW502-1 TZ703 SW654 SW654B SW654ND TZ704 GW750 GW750-2 GW751	本技術は、ローラの貯水タンクに樹脂製品を採用した技術で、従来は鋼鉄製貯水タンクを採用していた。本技術の活用により、錆び等の発生が皆無であり、散水ノズル等の詰まりによる施工品質の低下を防止できる。
HK-110015-VE	高安全性土工用振動ローラ	2022/3/31	SV512D-1 SV512DV-1 SV512T-1 SV512TV-1 SV512TF-1 SV900D SV900DV SV900T SV900TV SV900D-1 SV900DV-1 SV900T-1 SV900TV-1 SV513D SV513T SV513TF SV514D SV514T SV514TF	本技術は、土工用振動ローラの安全性を向上させた締固め技術で、従来は施工設備が優先された土工用振動ローラで対応していた。本技術の活用により、施工時の事故を未然に防止することができ、安全性が向上する。

NETIS対応機種一覧

2019/1/25更新

登録番号	技術名称	掲載終了日	対象	概要（NETISから抜粋）
HK-110039-VE	端部処理プレートコンパクタ	2023/3/31	PC41 PC51 PC61 PC61V PC70 PC80 PC41SL PC61SL PC43 PC53 PC63 PC43SL PC63SL PC43(HONDA) PC43SL(HONDA) PC53(HONDA) PC63(HONDA)	本技術はプレートコンパクタを用いた端部処理転圧技術で、本技術の活用により端部での施工性が向上し、品質の確保が図れる。また、端部施工に対応した機械仕様のため、耐久性やメンテナンス性も向上した。
HK-120001-VE	超音波式安全装置ミハール	2023/3/31	ミハール	本技術は、ローラの周辺作業員や障害物を超音波センサを用いて検知・警告する技術で、従来はローラ運転手の目視による安全確認、声掛けで対応していた。本技術の活用により目視確認とセンサによる二重確認となり安全性が向上する。
HK-120004-VE	アスファルト付着防止剤	2023/3/31	ネッパラン・エコW ネッパランS ネッパランSS	本技術は、アスファルト混合物の締固めにおいて、締固め機械の作業輪にアスファルト混合物が付着するのを抑制する技術で、従来は鉱物油の原液を使用していた。本技術の活用によりアスファルト付着防止剤が自然界へ流出しても、生態系への影響は最小限である。
HK-170016-A	安全監視装置搭載路面切削機	2023/3/31	ER555F	本技術は、安全監視装置を搭載した路面切削機で、工事中の安全性を向上させる技術。従来はその装置が未搭載の路面切削機で対応していた。本技術の活用により、モニタでの前後の確認及び障害物の検知並びに粉塵低減が可能となり、視認性及び安全性の向上が図れる。
HK-180024-A	緊急ブレーキ装置	2024/3/31	TZ704G	車両系建設機械の安全対策技術です。従来は運転者の目視による確認や監視員による誘導で対応していた。本技術の活用により、人や物の手で車両を停止させることが出来るため、接触事故を大幅に低減できる。

※登録番号の「-A」、「-VE」は情報種別記号。「-A」は、事後評価未実施技術。「-VE」は、新実施要領【平成26年4月改正】により事後評価され、継続調査・追跡調査が必要ない技術